

一般社団法人 日本画像学会 第 66 回定期総会議事録

日時： 2023 年 6 月 28 日（水）13 時 00 分～13 時 50 分

場所： 千葉大学けやき会館／Zoom オンライン会議

出席：・社員（委任状による者を含む）：378 名

- ・役員 会長 佐藤 利文
- 副会長 小林 範久、藤井 雅彦
- 理事 中山 信行、田中 作白、加川 哲哉
- 木崎 宏恵、中井 洋志、面谷 信
- 三矢 輝章
- 坂口 雅敏（記録）
- 監事 中居 達、服部 好弘
- 幹事 宮本 栄一、山崎 弘、朝武 敦
- ・顧問
- ・事務局 竹内 達夫
- ・評議員
- ・主査・委員ほか

<議事>

1. 開会の辞（中山運営委員長）

- ・ 定刻になったので只今から第 66 回定時総会を開催する。
- ・ 第 1～3 号議案が審議承認案件、第 4 号議案が報告案件である。

2. 会長挨拶（佐藤会長）

- ・ 昨年度トピックス

ICJ2022 オンライン開催（6/22-24）：参加者 182 名

Zoom + バーチャル空間 oVice を導入して活性化を図る

一般 38 件、キーノート・招待・受賞記念 11 件、合計 49 件

ICJ2022Fall 開催（11/21-22 名古屋；ハイブリッド）

画像関連学会連合会の合同開催（画像学会関連参加者 60 名）

一般 12 件、ポスター 5 件、特別・受賞記念 4 件、合計 21 件

4DFF2022 開催（10/13-14 山形；ハイブリッド）

第 3 回複写機遺産認定 3 件

- ・ 2023 年度予定

ICJ2023 開催（6/28-30 千葉大学；ハイブリッド）

コンセプト：画像が拓く豊かな共奏社会の創造
Satellite-ICAI (JSPS BAGIS Track) 同時開催
技術講習会 (7/3-7)
ICJ2023Fall (画像関連学会連合会秋季合同大会予定)
第4回複写機遺産認定 (2月予定)
技術研究会、シンポジウム、Imaging Cafe、等

3. 定足数の確認・報告・議長選出 (中山運営委員長)

①定員数の確認・報告

- ・ 定款第13条において総会成立は会員の過半数の出席が要件になっている。現在の会員数は617名 (学生会員除く) であり、定足数は309名となる。
- ・ 出席者は、ハガキ/WEBによる既議決者数30+同委任者数290+本日の出席者数58=合計378名である。定足数309名を上回り、定時総会が成立する。

②議長選出

- ・ 定款第15条により総会議長は会員の中から選出することになっている。
- ・ 本日の参加者から議長を募ったが希望者は無し。よって、運営委員会から本学会の佐藤会長を議長に推薦した。

賛成多数で承認された。

4. 第1号議案：2023年度役員案【審議・承認】 (中山運営委員長)

- ・ 定款第23条により当学会の役員任期は2年であり1年毎に半数を改選することになっている。

- ・ 役員 of 承認 (総会資料 P11 を参照)

2023年度改選候補 (任期：2023年6月－2025年定時総会まで)：理事候補12名、監事候補1名

非改選役員：理事15名、監事1名

役員/役員候補総数：29名 (理事/理事候補27名、監事/監事候補2名)、内新任3名留任26名

- ・ その他、退任役員等の紹介 (総会資料 P13 を参照)

2022年度退任役員5名

2023年度幹事4名、顧問7名

* 第1号議案に審議結果

2023年度役員案について、賛成多数で承認された。

(事前投票：賛成30票、反対0票、議長/その他会員委任290票)

5. 第2号議案：2022年度事業報告【審議・承認】（中山運営委員長）

- ・ 主要 5 委員会に絞り、スライドを用いた活動報告とさせて頂く。また、時間の関係上、運営委員長から 5 委員会の委員長を代行して報告する。
- ・ 以下 5 委員会以外の活動報告は配布資料を参照頂き、質問等をお願いしたい。

（1）編集委員会（宮本幹事）中山理事代行

① 委員会組織・活動（各種活動は基本的にオンライン化）

- ・ 編集委員会 6 回開催，特集企画会議開催
- ・ 学会誌企画・編集，校正，各種 WG

② 学会誌

- ・ 年 6 冊定時発行
- ・ Special Topics（12 月号）として
Medical Imaging Technology，英文解説 7 編を掲載

③ その他の活動

- ・ フリートーキング開催（オンライン）
第 40 回「高度化・多様化するシミュレーション技術最前線」，2022/9/30，72 名
第 41 回「加飾技術」，2023/3/20
- ・ 編集委員長賞選考・表彰
ICJ2022，ICJ2022 Fall
- ・ 学会誌面面向上の取り組み
技術・学術面と体裁・要件の 2 名査読者体制
技術面の査読候補者の拡充実施
査読マニュアルの改訂

（2）技術委員会（小林副会長）中山理事代行

①体制

- 委員長：小林範久、副委員長：藤井雅彦・前田秀一
主査交代：電子ペーパー/フレキシブル部会（八代徹⇒吉田学）

②部会

- 新領域検討に向けた Vision2030 の見直し。
他領域・学会との相互乗入れや共同開催の模索

③ 討議・交流

- メール主査連絡・会議(8/30, 9/09, 10/21, 11/10)、総会（1/20:参加者 58 名）開催

④ 複写機遺産

- 第 3 回複写機遺産認定 3 機種認定式(6/22)・プレスリリース
第 4 回募集(23/1/6 締切)

⑤ 技術研究会

第 152 回 (10/24) 電子ペーパー/フレキシブル部会

第 153 回 (11/14) 画像感性部会

第 154 回 (11/25) トナー部会

第 155 回 (23/1/27) 電子写真技術部会

第 156 回 (23/3/10) MBD 部会,

⑥ 技術講習会・シンポジウム

ICJ2022(online)(幹事会社制からの脱却・オーガナイズドセッション企画)

第 86 回技術講習会(Hybrid 7/4-8)

日本画像学会秋・技術講習会(Hybrid 12/12)

関東シンポジウム (Hybrid12/2)

画像感性部会-視覚学会とのコラボ (online 全 4 回 7/29-23/23)

⑦ 書籍

「画像処理」「有機半導体」の編集 (出版社編集方針見直しによる遅延・再依頼)

⑧ 領布・販売

標準キャリア領布 (トナー技術部会)

(3) 企画委員会 (中井理事) 中山理事代行

① イメージングカフェ

- ・ 2022/4～2023/3 の期間で計 4 回 (累計 97 回) 実施
- ・ オンライン開催を基本としたが、第 95 回ではハイブリッド形式も試行
- ・ 延べ参加者 87 名 (会員 51 名/非会員 36 名)

② 2022 年度関東シンポジウム

- ・ 『イメージング技術の進化と広がり俯瞰する』～画像技術の源流から最新の潮流まで～と題し、2022/12/2 にハイブリッド開催 (参加者 38 名、うち現地 11 名)

(4) コンファレンス委員会 (三矢理事) 中山理事代行

① 2022 年年次大会 (Imaging Conference JAPAN 2022 : ICJ2022)

[日本画像学会研究討論会 (第 129 回) : 日本画像学会年次大会]

- ・ 画像が拓く豊かな共奏社会の創造 (Enriched Synergic Society Powered by Imaging) をスローガンに 2022 年 6 月 22 日～24 日に開催した.

(感染対策: 完全オンラインにて実施)

- ・ 学会実行委員制を初めて試行、体制根幹にかかわるクリティカルな課題はなかった.
- ・ キーノートに加え、新企画 (特別企画) : 花王和歌山工場内エコラボミュージアムのオンライン見学会 (ライブ配信) など、オンラインのメリットを発揮した.
- ・ 発表数 48 (目標 50) 参加者数 181 (目標 250) 高い目標を掲げたので満たさなかったが、例年に比較してもまずまずの結果.

(5) 事業委員会 (木崎理事) 中山理事代行

①第 86 回技術講習会「困難に打ち克つための画像技術の基礎と応用」

日時：2022 年 7 月 4 日、5 日[EP] 6 日、7 日[IJ] 8 日[シミュレーション]

会場：ハイブリッド(対面+Zoom)開催

(講師、事務局は「ユニコムさがみはら」で運営)

参加者数：78 名 (81) () 内は昨年実績

正会員・維持会員：69 名※(72)、非会員：8 名(7)、学生：2 名(2)

※うち 4 名は応用講座のみ

<トピックス>

- ・参加人数は昨年同等
- ・昨年 Zoom 開催だったシミュレーション講習を対面で実施
- ・講習の有意性/満足度は良好な評価 (アンケート結果より)
- ・予稿集、講義資料の電子化、事前配信は好評

②秋のチュートリアル「疑問・悩みにとことんお答えします」

日時：2022 年 12 月 21 日

会場：対面+Zoom による初のハイブリッド開催

(Zoom 参加者はカメラ ON で受講)

- ・ハイブリッド開催でチュートリアル講習が可能であることを検証

* 第 2 号議案の審議結果

2022 年度事業報告について賛成多数で承認された。

(事前投票：賛成 30 票、反対 0 票、議長委任 290 票)

6. 第 3 号議案：2022 年度決算案・監査結果【審議・承認】(加川理事、中居監事)

(1) 2022 年度決算報告

①収支報告

- ・2022 年度通期事業活動収支は 233 万円の黒字決算

②事業活動収入詳細

- ・会費収入 82 万円減
- ・講習会参加費収入 29 万円増回復傾向
- ・試験標準品頒布 145 万円増テストチャート
- ・4DFF 参加費 36 万円増

③事業活動支出詳細

- ・会誌発行費 62 万円減
前年の増頁、増カラーから平年並へ
- ・試験標準品作製費 132 万円増
テストチャート

- ・4DFF 研究会支出 91 万円増

ハイブリッド開催

- ・広告宣伝費 34 万円増

コンバーテック出展費用

- ・事務機械化費 13 万円増

PC 購入 2 台

④事業収入の推移

- ・正会員費収入は 3 年連続落ち込み
- ・研究会、講習会参加費は復調もコロナ前には遠く

⑤事業支出の推移

- ・2022 年度のイベントは、リモートで開催されるケースが多く、ハイブリッド化で大きく予算を圧迫する傾向は見られなかった。

(2) 2022 年度監事監査報告

①監査方法の概要

- ・監事は、理事会や重要な会議に出席するほか、日本画像学会の関係者から事業の報告を聴取し、重要な書類の回付を受け学会における業務及び財産の状況を調査致しました。
- ・日本画像学会の関係者および財務委員会から報告および説明を受け、監査委員会を実施し、決算報告書について監査を実施致しました。

②監査結果

- ・業務監査の結果

日本画像学会の業務については、新型コロナウイルス禍が収束する中、ハイブリッド型イベントの開催にも取り組み、年度計画および事業計画等に基づき適正に運営されていたと認めます。

- ・会計監査の結果

2023 年 5 月 16 日、Web 会議にて監査委員会を実施した結果、加川財務委員長より説明があった、2022 年度日本画像学会決算報告書（貸貸対照表、正味財産増減計算書、収支決算書、財産目録他）は、必要な事項を正しく示していると認めます。

* 第 3 号議案の審議結果

2022 年度決算案・監査結果について賛成多数で承認された。

（事前投票：賛成 30 票、反対 0 票、議長委任 290 票）

7. 第 4 号議案：2023 年度事業計画/財務計画/年間予定【報告】（中山理事代読/加川理事）

■2023 年度事業計画（中山運営委員長）

- ・ 第 2 号議案の 2022 年度事業報告同様、主要 5 委員会の 2023 年の活動計画について運営委員長が代表して報告させて頂く。
- ・ 活動計画に続き、2023 年度財務計画について財務委員長より報告させていただく。
- ・ 5 委員会以外の活動計画は配布資料を参照頂き、質問等をお願いしたい
- ・ 学会の体制図、常設委員会組織図、技術委員会/技術部会組織図を示して説明した。

(1) 編集委員会

①組織

- ・ 編集委員会
定期委員会開催（年 6 回）
学会誌編集，校正
査読マニュアルの整備継続
- ・ 査読体制の強化の継続
主に技術・学術面と，主に体裁・要件を審査する 2 名査読者体制継続
技術面の査読候補者の拡充
執筆要項，査読マニュアルの改訂
- ・ 会誌電子配信の充実継続
海外在住会員，シニア・学生会員
- ・ 学会内他組織との連携
ICJ 実行委員会との連携継続
4DFF 論文誌発行協力の継続

②学会誌

- 年 6 冊の定時発行
- ・ ICJ 発表からの論文勧誘の促進継続
- ・ 年 1 回の英文クラスタ論文特集号
- ・ 特集記事 (IT/AT) の充実
- ・ Imaging Highlight, 教育講座, 研究室訪問の掲載を継続

③その他の活動

- ・ フリートーキング開催
第 42 回, 第 43 回を企画, 開催予定
- ・ ICJ 編集委員長賞, 学会誌論文賞

(2) 技術委員会

①新領域開拓

- vision2030 見直し・実行, 部会ミッション遂行
部会の縦（掘下げ）横（相互展開）展開,

②技術研究会の開催

③技術交流会の推進

④書籍：「画像処理」「有機半導体」の出版

⑤ICJ2023 オーガナイズドセッション(部会企画)開催

⑥活動予定

- ・主査会議、技術委員会総会の開催
- ・他学会/組織とのコラボ企画（予算建て含めて）
- ・技術講習会（春・秋）、関東・関西シンポジウムへの協力
- ・第4回複写機遺産認定事業

（3）企画委員会

①イメージングカフェ

- ・1回/2ヶ月のペースで開催予定
- ・2023年度中に第100回を迎えるためスペシャル企画を予定
- ・引き続きオンライン形式をベースとするが、リアル開催が可能となった場合はハイブリッド形式に移行

②2023年度シンポジウムの企画運営

- ・各技術部会による一年間の振り返りと、近年の技術トピック紹介を主とした内容で12月に開催予定

（4）コンファレンス委員会

①2023年度活動計画

- ・2023年年次大会（Imaging Conference JAPAN 2023：ICJ2023）
[日本画像学会研究討論会（第131回）：日本画像学会年次大会]
- ・＜計画＞ 開催日：2023年6月28日（水）～30日（金）（Hybrid形式）
会場：千葉大学けやき会館を中心

学振：研究拠点形成事業の国際セッションを設ける

- ・＜実行委員長＞ 千葉大学：小林範久副会長にお願いする
- ・＜改革＞ 昨年より難度の高いHybrid形式における学会実行委員制を試行
- ・＜コンセプト（スローガン）＞ 画像が拓く豊かな共奏社会の創造（Enriched Synergic Society Powered by Imaging） 考え方はICJ2022を引継ぐため同じとする
- ・＜発表申込数＞ 51件＜目標＞ 発表数66件、
参加者数：140（会場）100（オンライン）

（5）事業委員会

これからも若手／中堅技術者育成に繋がる活動を行います！！

①第87回技術講習会 2023年7月3日（月）～7日（金）

サブタイトル未定

- ・ハイブリッド開催を予定（リアル会場は「ユニコムさがみはら」）
- ・『基礎知識の習得と深化』で実務に直轄できるプログラム作り、講習内容の充実

- ・中堅者を対象とした技術動向、将来技術展望、展示会社イベントも盛り込む
- ・各社、各大学におかれましては、講師の派遣協力をお願いいたします（講師依頼中）
- ・シミュレーション講習も開催予定（シミュレーション部会と連携）

②チュートリアル 2023 2023 年 11 月~12 月に開催予定

- ・講師と直接議論しながらの特別セッション
- ・『電子写真技術』、『インクジェット技術』、『画像技術マーケット動向』の3分野での実施を検討中
- ・開催方法検討中

■2023 年度財務計画（加川財務委員長）

（1）2023 年度予算編成方針

- ・2023 年度は、2022 年度実績をモデルとし、対面イベント再開に伴うハイブリッド開催増も考慮し、費用の抑制が可能な科目を実態に合わせる形で予算の見通しの効く予算編成とした。
- ・社会状況に合わせたオンライン化は、新型コロナ感染対策の意味だけでなく、主催者、参加者共に多くのメリットのある手段として、今後も継続していくと思われる。
- ・事業収入の部では、会費収入の漸減傾向を反映した。研討・研究会参加費、講習会参加費は対面併用も含め収入増とした。しかしながら会費収入減は、将来の学会運営に支障をきたす問題であり、今後議論を進めていく。
- ・事業支出部では、オンライン利用で減少した会場費、会議費、運搬費等をハイブリッド開催も考慮して 2022 年の実績よりやや多く計上した。
- ・会誌発行費については、諸物資高騰の動向を反映し増額計上した。
- ・以上を盛り込み、2023 年度は、収入額を対前年より低めの 2661 万円、収支差額 88 万円の赤字予算編成とする。

（2）収支予算概要

- ・会費収入漸減傾向を反映
- ・事業収支は新規出版の学会負担を反映
- ・収支上は 88 万円の赤字予算

（3）事業収入詳細

- ・会員数の減少歯止めと維持会員口数維持を期待
- ・研究会と講習会のオンライン及びハイブリッド開催を想定
- ・標準キャリア頒布のみに戻る

（4）事業支出詳細

- ・会誌発行費年 6 回発行、22 年度実績より減額
- ・新規出版の学会費負担金を反映
- ・22 年度実績を踏まえて増額

- ・通信運搬費対面/オンライン併用あり想定
 - ・事務員費対面イベント増に備える
 - ・雑費新型コロナ対策費等
- (5) 投資活動, 財務活動収支
- ・202 年度と同様、費用発生は無し

8. 質疑応答 (佐藤会長)

なし

9. 閉会の辞 (佐藤会長)

2023 年度画像学会総会を終了します。

議事進行にご協力いただきありがとうございました。

2023 年 6 月 28 日

一般社団法人日本画像学会 2023 年度総会議事録

総会議長 佐藤 利文 印

議事録署名人 中山 信行 印

議事録作成者 竹内 達夫 印